

「青天井」の教えを胸に



「今も甲南の仲間を支えられている」と近藤康之さん

境で、先生のおおらかさに救われた。「人間としての器を育ててくれました」

会社でも、風通しの良

毎年初夏に灘高校(神戸市)とスポーツで競い合う「灘甲戦」は、運動部員にとって一大イベントだ。

空調設備などの設計・

施工会社、不二熱学工業社長の近藤康之さん(42、1993年卒)は、サッカー部員だった。勉強でかなわなくても、スポーツなら勝てると思っていたが、3年の時に負けた。

灘高は受験のため、灘甲戦が引退試合になる。甲南がどこか余裕を持って戦っていたのに対し、

灘はスカウティング(偵察)までする入念さ。「戦略で負けた」と感じ、悔しさがこみ上った。

6年間、皆勤するほど学校が好きだった。先生に自由に意見を言える環境があったと振り返る。

電気自動車のスポーツカーを扱うベンチャーのGLM社長、小間裕康さん(38、96年卒)は「まじめな子もやんちゃな子も、お互いを認め合う文化があった」と振り返る。



「自由な校風で、責任の重さを教わった」と小間裕康さん

クラシック音楽しか聴かなかったが、やんちゃグループの友人がザ・ブルーハーツを聴かせてくれた。衝撃的だった。その仲間とバンドを組むことになり、独学でピアノを始めた。

高2の時、阪神・淡路大震災が起きた。神戸市灘区の自宅は全壊。連絡が取れなかった同級生の死を、後日知った。「死に顔を見ても実感できなかった」

死と隣り合わせの経験をし、悔いなく生きたくなった。思いついたのは、始めたばかりのピアノで人々を明るくすること。町の集会所や喫茶店にキーボードを持参して演奏するうちに評判になった。

大学で友人とピアノデュオを結成。神戸ルミナリエでの演奏を見たパソナ創業者の南部靖之さんとの出会い、食事会などに招かれるように。人材派遣業に関心を寄せ、在学中に、演奏家を結婚式などに派遣する仕事を始めた。

自ら会社を立ち上げるベンチャーの起業家である南部さんへの憧れが、今の仕事につながった。

「甲南で教わったのは、限界を決めない『青天井』の考え。どこまでも目標を高く持ち、グローバルに戦える企業をめざした。」(中塚慧)